

# News Release

2012年2月22日

東京都品川区大崎1丁目11番1号  
ゲートシティ大崎ウェストタワー  
株式会社日本製鋼所  
東京都中央区日本橋一丁目4番1号  
日本橋一丁目ビルディング  
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社

## 中近東向けにクラッド鋼管の大型案件を受注

株式会社日本製鋼所（本社：東京都品川区、社長：佐藤育男）と伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社（本社：東京都中央区、社長：牛野健一郎）は、スペインの Tecnicas Reunidas S.A.（以下 TR）社より約1万1千トン、またイタリアの Saipem 社（共に EPC Contractor）より約4千トンの硫化水素や炭酸ガス含有の腐食性の高い天然ガスの輸送管に使用されるクラッド鋼管を昨年受注し、いずれも今年全量を出荷する予定です。

契約金額は、それぞれ1.5億米ドル、1億米ドル、合計2.5億米ドル超となります。クラッド鋼管としては、過去最大級の成約となります。

本品は、アラブ首長国連邦（U.A.E）の国営石油会社、ADNOC 社が同国内で推進する Shah Gas（シャーガス）Field の開発、及びサウジアラビアの国営石油・天然ガス会社、Aramco 社が同国沖合いで推進する Wasit（ワシット）Project 用に供給されるもので、前者は TR 社が全長約50キロ、後者は Saipem 社が約33キロに及ぶガスピープラインの敷設工事を、エンジニアリング・調達・建設の一括契約でそれぞれ受注しています。

海外メーカーとの厳しい競争を経て、高い技術力と豊富な実績を有する日本製鋼所の製品が評価を得たこと、また Saipem 社との商談においても、対象が非常に腐食性の高い天然ガスを生産するガス田の開発プロジェクトで、Aramco 社にとって初のクラッド鋼管採用案件でもあったことから、高品質に加え幾多の供給実績を持つ日本製鋼所の製品が Aramco 社の要望に合致するものとして認定された結果が、受注に結びついたものと確信しております。加えて、パイプラインビジネス、鋼管

の取引における長年の経験、実績により培われた伊藤忠丸紅鉄鋼の商社機能も認知、評価されたものと思います。

<クラッド鋼管について>

クラッド鋼管は、主原料の炭素鋼とニッケル、モリブデン、クロム等により組成される合金鋼とが金属的に完全に接合されたハイエンドな製品で、硫化水素や炭酸ガス含有の腐食性の高い天然ガスの輸送管用などとして採用されていますが、日本製鋼所の製品は、世界でもトップクラスのシェアを誇るもので、これから有望分野であります。

クラッド鋼管の潜在的な需要は、今後も開発環境の厳しくなる中近東、豪州、欧州等で見込まれ、日本製鋼所、伊藤忠丸紅鉄鋼では今回の成約を機としてクラッド鋼管の拡販にさらにはずみをつけたいと考えています。

<本件に対する問い合わせ先>

株式会社日本製鋼所 経営企画室広報 Gr 担当：奥山、堤 03-5745-2012

伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社 総務部 久保山・正田 03-5204-3345